

愛知県常滑市（国内 40 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 21 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（12.7 万羽）

発生家きん舎の構造：開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（ひな壇式 2 段及び 3 段ケージ 12 列、通路 6 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、知多半島の平野部にある養鶏団地内の中央から北側に所在する。養鶏団地の周辺は収穫済みの水田に囲まれており、二番穂が出ているところもあった。
- ② 当該農場は、今シーズン国内 22 例目（愛知県 3 例目）の発生農場と 5m 程度の道を挟んで隣接していた。また、同養鶏団地内では、国内 17 例目の発生が確認されていた。
- ③ 当該農場は、開放鶏舎 1 棟、ウインドウレス鶏舎 4 棟（成鶏舎 2 棟、育成舎 2 棟）で構成されており、開放鶏舎 1 棟は中央に集卵スペースを挟む形で東西に鶏舎が配されていた。なお、当該農場は公道により敷地が分けられており、育成舎 2 棟はその他の鶏舎と別の敷地に立地し、独立した衛生管理区域となっていた。
- ④ 発生鶏舎は、当該開放鶏舎のうち東側に位置する鶏舎であり、ひな壇式ケージが 12 列配置されていた。
- ⑤ 周辺での本病の発生を受けて、農場周辺の道路を消毒していた。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 農場長によると、発生鶏舎（通報時約 750 日齢）には約 1.7 万羽の採卵鶏が飼養されており、1 日当たりの平均死亡羽数は 10 羽程度であったとのこと。
- ② 農場長によると、1 月 20 日の朝の見回りの際、同一ケージ内で 2 羽固まって死亡しているのが確認され、周辺のケージでも沈鬱を呈した鶏が複数確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ その後、家畜保健衛生所の職員が到着するまでにさらに 2 羽の死亡が確認されたが、発生前の産卵率低下、食欲減退などはみられず、他の鶏舎では特段の異状は確認されなかったとのこと。
- ④ 調査時、通報のあったケージ付近で死亡や沈鬱を呈する鶏が確認された。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場には、農場長を含め従業員が 9 名おり、飼養管理を行う農場長、集卵作業専属従業員 1 名、以下飼養管理も集卵も行う従業員が 7 名であった。
- ② 農場長によると、開放鶏舎とウインドウレス鶏舎で担当が分かれており、発生鶏舎の担当者は 3 名とのこと。また、農場長は全体の健康観察を行っていたとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場は敷地が 2 分割されており、敷地毎にそれぞれ関係者以外立入禁止を示す看板が設置されていた。更衣室は発生鶏舎等が所在する敷地（西側）および公道を隔てて向かいにある育成舎側（東側）敷地に設置され、公道に面した東側敷地内に動力噴霧器が設置されていた。
- ② 農場長によると、従業員が衛生管理区域に立ち入る際は、更衣室で場内専用作業着、長靴に履き替え、使い捨て手袋を着用していたとのこと。

- ③ 飼料搬入業者は2日に1回来場しており、搬入業者は衛生管理区域内に立入ることなく、公道から飼料タンクに補充していたとのこと。
- ④ 鶏卵業者は週3回来場しており、搬出の際は、動力噴霧器で車両消毒の上、衛生管理区域内に立ち入り鶏舎の出荷口前に車両を駐車していた。また、集卵業者は、衛生管理区域入口で持参した長靴に交換し手指消毒を行うが、更衣は行っていないとのこと。
- ⑤ 農場長によると、従業員が鶏舎内に立入る際は、鶏舎入口に設置された踏込消毒槽（逆性石鹼、毎日交換）で長靴を消毒し、鶏舎専用長靴への交換、手指消毒を実施していたとのこと。
- ⑥ 農場長によると、重機や器具及び従業員について、他農場との共有はないとのこと。
- ⑦ 発生鶏舎側面の開口部には、防鳥ネットや金網が設置されていたが、防鳥ネットが脱落している箇所や、鶏舎内の破損箇所が複数確認された。
- ⑧ 発生鶏舎では、集卵時、集卵コンベアでケージラインの端に集めたものを従業員が手作業でトレイに並べ、集卵業者が週に3回引き取りに来ていたとのこと。
- ⑨ 給与水には、共同ポンプ場から引いた消毒済みの水を使用しているとのこと。
- ⑩ 飼料タンクには蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎に共有されていた。
- ⑪ 農場長によると、発生鶏舎の鶏糞はケージの下に堆積させており、不定期に鶏舎外に搬出しているとのこと。発生鶏舎から出る鶏糞は、公道を隔てて向かいの敷地にある堆肥舎（発酵処理施設）で堆肥化しており、前回の搬出は12月であったとのこと。
- ⑫ 農場長によると、発生鶏舎ではオールイン・オールアウトは実施しておらず、鶏舎内のケージ列ごとにロット管理を行っており、鶏の導入や出荷はロット単位で行っていたとのこと。
- ⑬ 農場長によると、死亡鶏と廃棄卵は毎朝の健康観察時に一輪車で回収し、発生鶏舎の隣にある堆肥舎（発酵処理施設）内の鶏糞に混ぜて処理していたとのこと。
- ⑭ 農場長によると、当該農場では約500日齢で誘導換羽を実施しており、発生鶏舎における直近の実施は昨年夏頃であったとのこと。また、発生鶏舎では、直近21日間の鶏の導入・搬出はないとのこと。
- ⑮ 近隣農場での本病発生を受けて、鶏舎周辺の消毒を強化していた。
- ⑯ 近隣農場での本病発生を受けて、ネズミ捕りシート及び毒餌を用いての対策強化を実施していた。また、鶏舎の金網を修繕し、野生動物の侵入防止対策を強化していた。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、農場内や農場周辺では野生動物の姿を見かけることは特にないとのこと。また、農場周辺ではカラスを見かけるとのこと。調査時、カラス、ハクセキレイ、スズメなどの野鳥を確認した。
- ② 農場主によると、ネズミをよく見かけるため、ペストコントロール業者と契約し、1か月に1回、殺鼠剤や毒餌の散布を行っているとのこと。調査時、発生鶏舎の鶏卵搬出口付近でネコの姿を確認した。

（以上）